



グリーン購入法を腕まくりでひっぱっていく環境省の藤塚さん（左から2番目）と同僚の皆さん

「環境省ではグリーン購入法施行に先だって全国12カ所で同法の説明会を国の機関と地方自治体を対象に行いました。白色度70再生コピー用紙の調達はスムーズに行われていると思います。この法律の施行によってリサイクル型素材の需要が高まったと新聞でも報道されました。すでに全国47の都道府県でも白色度

70再生コピー用紙が使われていますが、この輪が3300すべての市町村にひろがることを期待します。国家公務員、地方公務員、合わせて400万人以上の大所帯ですから、このシフトが成されれば白色度70のシェアはぐっと高まるのではないかと思います。今後は物品だけでなく、運送・配送や出張先のホテル、そういったサービスの利用も環境配慮型のものへとシフトを図っていきます。また、基本方針は毎年見直していきます。すでに乗用車については数年後に低公害車へのシフトが完了するよう見直しが行われています。一度決まったらそのまま動かさない、そういう法律ではありませんか。」

うのはなかなかたいへんなことです。藤塚さんをはじめとする同僚の皆さんからは、グリーン購入法を引っ張っていくグリーンパワーを感じました。



環境省ホームページではグリーン購入法に関するさまざまな情報提供がなされています
TOPページ
<http://www.env.go.jp/index.html>
グリーン購入法のページ
<http://www.env.go.jp/policy/green/index.html>

「資源新報」は古紙等の資源を見つける専門紙



「グリーン購入法の施行により、環境配慮型製品の普及に拍車がかかることはたしかだと思っています。民間企業にもその輪はひろがっていくでしょう。循環型社会の実現に向けた取り組みとして高く評価すべきことだと思います。ただし、この法律の真価が問われるのはこれからです。グリーン購入法が生きたルールとして社会に定着するためには、アセスメント的な手法を取り入れながらさまざま



古紙リサイクルについて
目と足を使って考える太田さん

グリーン購入法のスタートは環境活動の必然を探し求める新しい糸口なのだと思います。」古紙リサイクルについて、環境行政・製紙業界・回収会社、ユーザーである企業、それぞれの現場を見続けている太田さん。真剣なまなざしと緊張感を感じたコメントを聞かせてもらいました。

ルールの真価はこれからだ

株式会社資源新報社 取締役
太田 原 充

「当社では、古紙配合率100%・白色度70の再生コピー用紙「グリーン100」という商品を1997年に発売しました。環境負荷の少ない商品の普及によりリサイクル社会の実現に貢献していくことが、PR活動やこういった製品使用の提案を積極的に行うと共に、包材の工夫などによりコストダウンにも努めてきました。実際、再生コピー用紙の販売枚数は増加してきました。グリーン購入法施



古紙配合率100%・白色度70%「Green 100」のパンフレットを手にする定島さん

地球のことについても、この頃は自分の問題として考えるようになってきた。力づいて、よいコメントを語ってくれました。

ひろげよう グリーンの輪

環境省 総合環境政策局 環境経済課 課長補佐 藤塚 哲朗

今年の4月1日よりグリーン購入法が施行されました。これにより、行政機関や地方自治体を中心に白色度70再生コピー用紙へのシフトに拍車がかかることが期待されています。さて、その実態は？ 今回の会報では、同法を率先する環境省、製品のユーザーである企業、コピー用紙のサプライヤー、そして業界専門紙の記者の方々に、それぞれの現場の声を聞かせていただきました。

グリーン購入法施行

現場の声は!?
第12回会員総会と特別講演会

声!?

発行日 平成13年9月3日
発行 オフィス町内会事務局 代表 半谷寿寿(東京電力)
連絡先 〒108-8557 東京都港区赤坂4-6-114 東京環境エンジニアリング(株)内
オフィス町内会事務局実行本部 TEL:03-3454-0408 FAX:03-3452-4815
編集 オフィス町内会事務局 副代表 緒方毅 内田道郎 エリナチ

「エコの気持ち」 で環境活動

サントリー株式会社 東京総務部 課長 西尾 宗明



「当社では、環境活動を『エコシップ』と名付けて取り組んでおりまして、1997年に環境基本方針を定め、できることからやっています。う、ということでは白色度70・古紙配合率100%の再生コピー用紙を全面採用しています。導入検討に際しては危惧の声も



西尾さんを中心に環境レポート、エコシップな事務用品、マグナムドライを掲げるサントリーの皆さん

のがあります。ですが、今後はこのようにきただけ切り替えていくと考えられています。」西尾さんにお話をうかがっているところ、リサイクルや環境活動はもはや気負って行うことではなく普通であってしまえのこともんだ、という同社の姿勢が感じられました。サントリーのエコの気持ちに、乾杯

世の中が うごきはじめた

富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
販売本部 市場開発グループ 担当マネージャー 定島 茂文

「当社では、古紙配合率100%・白色度70の再生コピー用紙「グリーン100」という商品を1997年に発売しました。環境負荷の少ない商品の普及によりリサイクル社会の実現に貢献していくことが、PR活動やこういった製品使用の提案を積極的に行うと共に、包材の工夫などによりコストダウンにも努めてきました。実際、再生コピー用紙の販売枚数は増加してきました。グリーン購入法施



緑の地球 元気な未来を
子供たちへ

うつつくしい ストックヤード

山之内製薬株式会社 総務部 環境保全室
飯島 壽美子



山之内製薬の取材の途中、地階のストックヤードを拝見しておどろいた。とてもキレイ。機密書類、紙、金属、ガラス等10種に分別された資源がパイプカーゴに入れられ、整然と美しく並んでいる。そして、ごみはほんの少し。聞けば「うちの小松課長がいつも言うのは、きいたくない所はどきれいにしよう、これはごみでは無く資源で、回収会社さんにとって商品なのだから」とのこと。なるほど、この整理整頓された美しさは、同社のリサイクルへの取り組みそのまの姿なのだと感じた。



古紙は腰にくるから

「来年からペットボトルの回収に取り組みため、現在、発生量の調査を行っています。また、BOXの変更も検討中として、従来のBOXと現在の分別態勢がそぐわなくなってきた点がある」と、紙は結構な重量になるので、清掃会社のスタッフの皆さんのご苦勞を少しでも軽減するためです。清掃の仕事って、けっこう腰にくるんです。資源分別は、清掃会社の仕事の質によるところが大きいと思います。うちのスタッフの方々は、集めたごみに手をいれて、分別できる資源をそこから拾い上げることまでしてくれています。

眠らない委員会

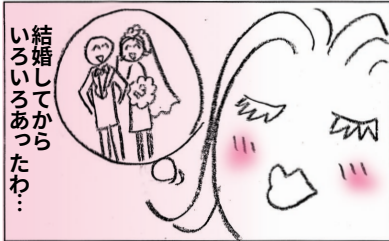
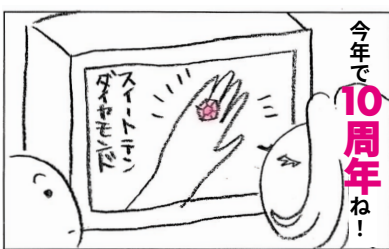
「オフィス町内会の発足時から参加させてもらって10年。現在、この本社地区4つのビル古紙のリサイクル率は87.2%で、都からも高い評価をいただいています。前任者の地道な努力の成果だと思っ



掃除前と必要に応じて開催する40名ほどの委員会を年数回行っています。眠らず機能している委員会をめざし、継続的なリサイクル活動の原動力としてきました。」

リサイクルの取り組みが定着しました。これからは、全国100カ所以上の支店・営業所にもこのリサイクルの輪をひろげて行くことが目標です。」

ななくん



まなこに月々の光にものともえれば
やたらと日々を銀色に照らす
今号の短歌

イベントの声 2001NEW環境展



オフィス町内会は、日本最大規模のリサイクル展示会2001NEW環境展に、恒例により今年も出展。東京会場は5月29日～6月1日、仙台会場は7月12日～14日に行われ、それぞれの会場で古紙リサイクルや環境問題に取り組む関係者の皆さまと

コミュニケーションを図ることができました。数年前まで、リサイクルの展示会という、限られた分野におけるマイナーなイメージが会場に漂っていたように思えますが、近年は活気のあるビジネス展の様相を見せています。リサイクルが社会経済システムに組み込まれ、ビジネスや生活の



中に定着してきたことがうかがえます。秋には9月4日～7日まで、インテックス大阪で行われる、大阪会場に出展いたします。機会があればお出かけください。

総会の声 第12回オフィス町内会会員総会と

釜本邦茂特別講演会



本サッカー協会 本副会長の釜本

邦茂氏をお招きし

7月6日、千代田区永田町の星陵会館にて、第12回オフィス町内会会員総会が開催されました。オフィス町内会は、発足以来10年を経過し、平成12年度末現在参加企業163社、回収量8710トンの規模に拡大しています。さて、当日は総会に先立って日

特別講演会が行われました。メキシコ五輪のメダリストでもある釜本氏は、2002 FIFAワールドカップ開催をひかえ、日本代表チームへの熱い期待とチーム力の強化について、さまざまなエピソードをまじえながらお話ししてくださいました。「マスコミの報道と実際の事

の必要なことを考え弱いところを練習できた。等々。ときに笑いをはさんで興味深く聞いたそのお話は、組織運営や人材育成のあり方について考えるヒントにもなったのではないでしようか。いづれにせよ、サッカーに打ち込む釜本氏の熱意を感じた講演でした。



13年度の社会貢献活動計画、エコ・オフィス町内会の現況などが報告され承認されました。また総会では、事務局スタッフの変更が報告され、これまで副代表を務めた富士ゼロックスオフィスサプライの定島茂文氏が退任し、同社の村田正夫氏が副代表として就任。発足以来オフィス町内会の活動をリードしてきた東電環境エンジニアリングの神原誠氏が副代表を退任し、事務局アドバイザーに就任。その後任として事務局実行本部スタッフとして東電環境エンジニアリングの内田道昭を迎えました。

●はじめまして！ 第12回会員総会にて新たに事務局実行本部の一員になりました内田でございます。まずは、自己紹介から。私は、昭和37年生まれの39歳、長女12歳を筆頭に三人姉妹の父であります。行動の基本は、仏滅の日はおとなしく静かに過ごし、先勝の日には午前中にしか行動をしないなど、暦を大切に行動しております。会員企業の皆さま、資源回収会社の皆さま、どうぞよろしくお願ひします。(内)



事務局通信

●発足から10年。口で言うのは簡単ですが、この間、会員の皆さま方のご支援・ご協力無くしては、ここまでオフィス町内会が成長することは無かったと思います。

総会の席でもお話ししましたが、この10年間で社会情勢は大幅に変化しましたし、町内会に関わる人々についても去就がありました。

私たち事務局では、時間とともに薄れがちな皆さまとの交流についても積極的に取り組んで参る所存です。現在、企画立案中。ご期待下さい！

●はじめまして！ 第12回会員総会にて新たに事務局実行本部の一員になりました内田でございます。

困ってるんです。

前号の会報に引き続き、事務局と回収会社から会員企業の皆さまにお願ひです。近頃ふえてきたのが、回収予定の土壌場でのキャンセルや「今日来て」「明日来て」という急な回収依頼です。オフィス町内会の回収システムの特徴のひとつは、効率的な回収を行うことです。これにより、回収負担金を軽減し、会員企業の皆さまと回収会社の両者にとってのメリットを生み出しています。回収予定を突然に変更することは、オ

ドタキャンご勘弁を。

フィス町内会方式の古紙回収システムのメリットを、少なからず損ねてしまう要因となります。回収の依頼やキャンセルのご連絡は余裕をもって早目にご連絡くださるようお願いいたします。また、連休や年末年始の時期は特に早めに「エコ・オフィス町内会の会員の皆様へ」連絡の際に、地区名を必ずお申し出ください。